

事業名	主な事業内容	指標 (K P I) 重要業績評価指標	地方創生への効果/その理由	今後の方針/その理由
<u>地域に根差し、未来を担う企業の振興</u>	■ 地元企業、高等学校等及び行政が連携した対面形式による企業ガイダンスの実施 ■ 小学生・中学生を対象とした企業見学会の実施	A: 高校新卒就職者のうち、地元企業への就職者の割合(%) (目標値) ⇒ (実績値) A: 17.0 19.3	➤ <u>非常に効果的であった</u> 企業ガイダンス及び企業見学会について継続的に取り組んできたことで、高校卒業時の就職に向けた選択肢として浸透してきており、目標値を達成し、非常に効果があった。	➤ <u>計画通りに継続</u> より多くの企業や学生の参加を促すため、内容の見直しを図りながら双方に魅力ある事業へと拡充させていく。そのことにより、企業及び学校の連携が図られ、人材確保や人材定着につながり定住人口の増加に寄与する。
<u>新規就農総合支援事業</u>	■ 農業次世代人材育成事業の活用や地域農林業担い手育成支援事業等の支援による就農時の経済的負担軽減に向けた補助の実施 ■ 新規就農に関するサポートチームによる巡回指導及び農地等の提供のために導入した現地調査用タブレット活用等によるサポート体制の構築	A: 新規就農者数(延べ数R1～)(人) B: 農業研修施設研修受講者数(人) (目標値) ⇒ (実績値) A: 33 48 B: 6 4	➤ <u>相当程度効果的であった</u> 新規就農者については、サポート体制の強化等により目標値の33名に対し48名の実績であり、研修施設研修受講者についても、JA鹿本地域担い手育成センターにおいて昨年度同様の4名が研修を修了し、概ね成果が得られた。	➤ <u>取組追加等でさらに発展</u> 新規就農者は引き続き増加傾向であり、6年度には担い手育成総合支援協議会のホームページを作成する予定であるため、受入農家等の拡充など更なるサポート体制の強化に努める。また、令和5年度新規事業である未来のリーダーづくり支援事業を活用し、地域の未来を支える人材の育成・確保を図る。
<u>ふるさと未来創造プロジェクト(稼ぐ観光地再生)</u>	■ 県北4市町と県が連携し、インバウンド向けのオンラインツアーの実施 ■ 各地の温泉とキャンプ場を合わせた「温キャン」のPR ■ 菊池川日本遺産事業におけるフォトコンテストの実施 ■ 旅する人が会いたくなる「やまがびと」の制作、配布。 ■ eスポーツによる教育・福祉・観光等で意見交換や情報共有、認知度向上	A: 日帰り客数(千人) B: 宿泊客数(千人) (目標値) ⇒ (実績値) A: 4,611 2,548 B: 378 232	➤ <u>効果があった</u> 観光客は回復傾向にあるものの、団体旅行は低迷し、日帰り客は前年度とほぼ横ばいだったが、全国旅行支援などの効果で宿泊者数は約1.5倍増加した。近隣の自治体との連携で、インバウンド受け入れ準備も着実に進み、観光施設からの期待も高まっている。 また、昨年に引き続きオリジナルアイスの販売や山鹿灯籠踊り踊り手募集を行ったがSNSなどでの反響が大きく、本市が近年福岡県に向けてPRを行っている成果が現れていると考えられる。目標値に達してはいないがコロナウイルス感染症の影響が続くなか、宿泊者数が増加したことで、街中の賑わいが少しずつ戻りつつあり、効果があった。	➤ <u>取組追加等でさらに発展</u> 台湾、香港、韓国からの個人旅行者及びTSMC関係者をターゲットに設定し、旅行会社やKOL(購買意欲に影響を与える人物)の招へいなどを実施し、商品造成など具体的な観光客の誘致に展開していく。eスポーツ事業の関係団体や規模が拡大しつつあるため、各分野での取組を発展させながら、交流人口の拡大を狙う。また、官民協働の取組を通して事業効果を高めていく。 福岡県からの日帰り圏内でもあることから、オリジナルアイスの販売や季節ごとの食フェア(たけんこ街道・マロンフェスタ)などをPRし、日帰り客の増加を図る。また、宿泊者の増加を図るために、全国旅行支援に引き続き、山鹿市独自策として、宿泊者に対して商品券(クーポン)を付与する「やまが観光応援事業」を実施する。
<u>観光戦略プロモーション(福岡ターゲット構想)</u>	■ 山鹿和栗を使ったオリジナルアイスを市内物産館で限定販売、栗紹介の動画・市ホームページを活用した広報 ■ インフルエンサー、新聞広告等でのやまが温泉郷掲載 ■ 大宰府天満宮での灯籠まつりPR			
<u>豊前街道の歴史的まちなみ再生プロジェクト</u>	■ 豊前街道沿いの空き家・空き店舗の改修費用の補助実施 ■ 創業・開業に対する家賃補助の実施	A: 改修した空き家・空き店舗で開業した事業所数(件) B: 改修した空き家・空き店舗で開業した事業所の利用者数(延べ人数) (目標値) ⇒ (実績値) A: 3 2 B: 59,000 79,075	➤ <u>非常に効果的であった</u> 豊前街道を対象とした空き家・空き店舗改修補助により2軒の店舗が新規開業した。 新規開業数は目標値を下回ったが、対象事業所の利用者は目標値を大きく上回り、非常に効果があった。 また、家賃補助による空き店舗を活用した新規開業数は、16軒であった。	➤ <u>計画通りに継続</u> 関連事業の実施により一定の成果が得られている。しかし、豊前街道沿線において利活用できる空き家等の物件が残存するため、当該事業を継続することによってさらに賑わい創出と魅力あるまちなみ形成を図っていく。